

産業廃棄物処理業景況動向調査結果について（速報） 〔2010年7-12月期〕

当連合会は全国の協会会員企業の協力を得て、平成22年7月-12月期日の景況動向調査を実施し、調査結果を次の通りまとめました。

《調査結果》

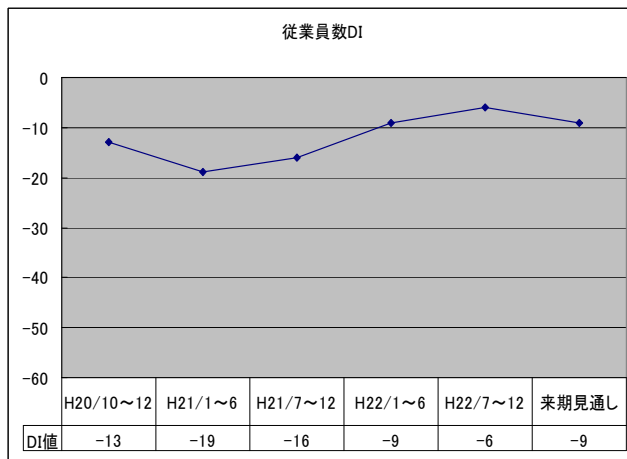
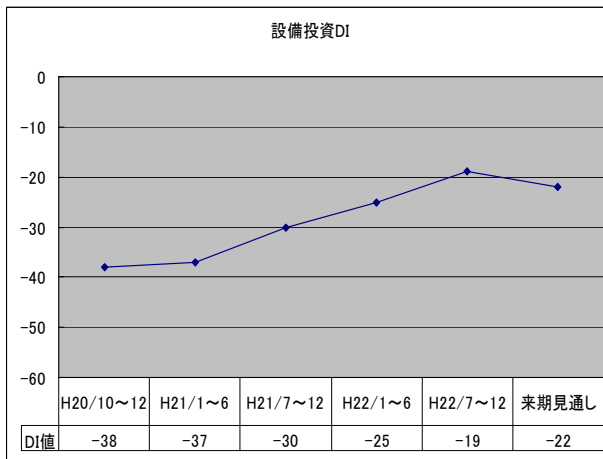
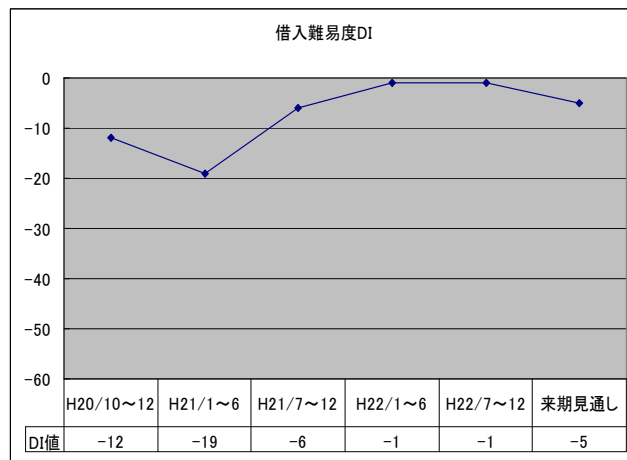
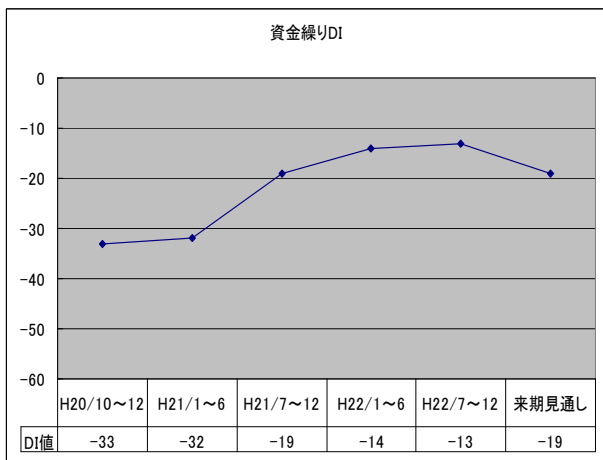
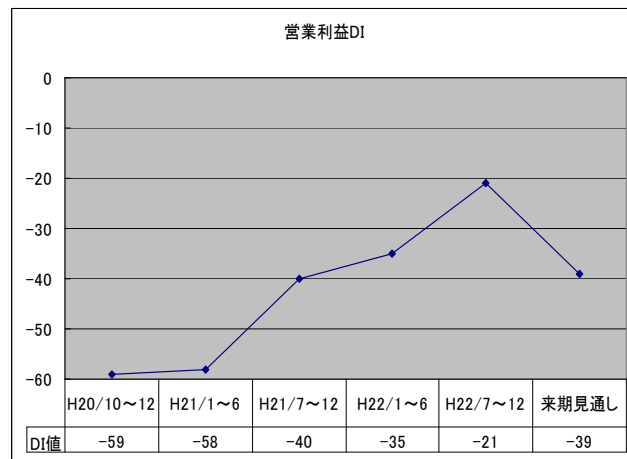
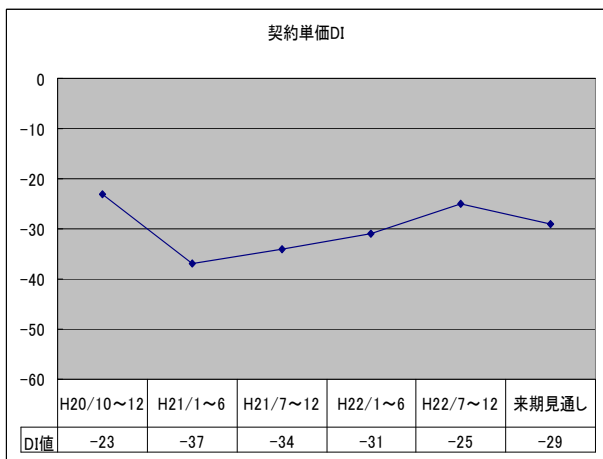
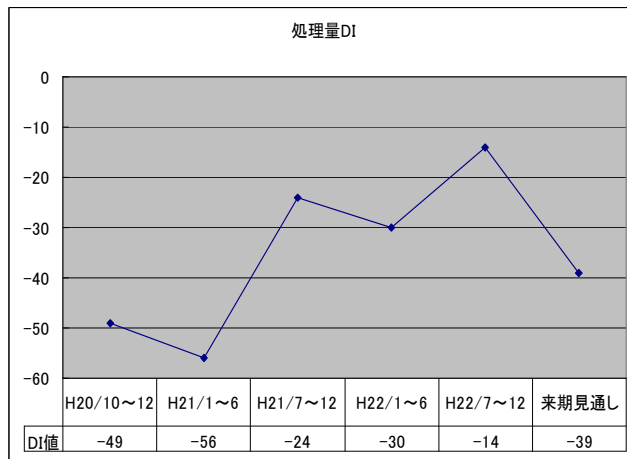
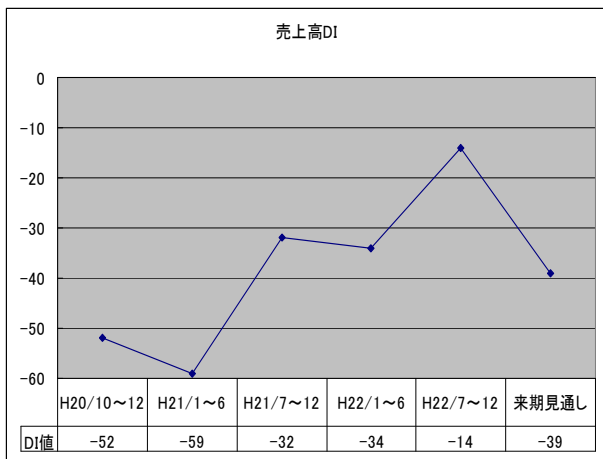
業況は持ち直しの動きが見られるものの、景況判断を「好転」とした企業は4%に過ぎず、依然厳しさ続く。

- 2010年7-12月期の景況判断を「悪化」とした企業は52%で前回調査（2010年1-6月期57%）よりも5ポイント改善しているが、「好転」とした企業は4%で前回調査（4%）と同水準となっている。業界環境は依然として厳しい状況である。

以下、業況感DIの内訳

- ・ 景況判断DIは▲48で、2010年1-6月期から5ポイント改善。
- ・ 売上高DIは▲14で、2010年1-6月期から20ポイント改善。
- ・ 処理量DIは▲14で、2010年1-6月期から16ポイント改善。
- ・ 契約単価DIは▲25で、2010年1-6月期から6ポイント改善。
- ・ 営業利益DIは▲21で、2010年1-6月期から14ポイント改善。
- ・ 資金繰りDIは▲13で、2010年1-6月期から1ポイント改善。
- ・ 借入難易度DIは▲1で、2010年1-6月期と同水準。
- ・ 設備投資DIは▲19で、2010年1-6月期から6ポイント改善。
- ・ 従業員数DIは▲6で、2010年1-6月期から3ポイント改善。
- 今後の景況感DIの見通しは、景況判断DIで▲55となっている。
- 売上高の動向については、2010年7-9月期で前年同期比（3ヶ月平均）▲8.8%、2010年10-12月期で前年同期比（3ヶ月平均）▲14.2%となっている。
- 処理量の動向については、2010年7-9月期で前年同期比（3ヶ月平均）2.4%、2010年10-12月期で前年同期比（3ヶ月平均）▲3.5%となっている。
- 経常利益率については、平均値が5.14%（前回調査5.24%）となっている。回答割合は「5%未満」40.6%、「5-10%未満」15.0%、「10%以上」16.1%となっている。
- 経営上の問題点については、1位「同業者相互の価格競争の激化」、2位「需要の停滞」、3位「顧客先からの値下げ要請」、4位「取引先の減少」、5位「人件費以外の費用増加」となっている。

※DIとは、ディフュージョン・インデックス(Diffusion Index)の略で、「好転」・「増加」したなどとする企業割合から、「悪化」・「減少」したなどとする企業割合を差し引いた値である。



《調査の要領》

- 調査の対象：前回の調査（2008年10-12月期）で回答のあった全国の協会会員企業
- 調査の方法：郵送によるアンケート
- 調査期間：平成23年1月13日～2月21日
- 回答企業数：461社